

国立青少年教育施設における傷病の概況（令和5年度調査）速報値

< 概要版 >

調査結果のポイント

令和5年度の国立青少年教育施設（27施設）の利用者数は約167万人で、そのうち、傷病の発生件数は3104件（負傷927件、疾病2177件）で、前年度（1806件）に比べ、1298件（負傷186件、疾病1112件）増加した。

（負傷の概況）

負傷で多かった症状は「打撲」（175件）で、次いで「ねんざ」（144件）、「やけど」（138件）であった。症状毎に負傷した部位と負傷の要因をみると、それぞれ多かった部位や要因は表1のとおりであった。

表1. 負傷の症状別にみた負傷した部位と負傷の要因（上位3つ）

症 状	部 位	要 因
1. 「打撲」 (175件)	1. 「頭」(56件) 2. 「顔」(22件) 3. 「手・指」(19件)	1. 「不注意(本人)」(85件) 2. 「不慣れ(本人)」(40件) 3. 「注意不足(指導・引率者)」(36件)
2. 「ねんざ」 (144件)	1. 「足首」(114件) 2. 「膝」(10件) 3. 「手首」(7件)	1. 「不注意(本人)」(67件) 2. 「不慣れ(本人)」(48件) 3. 「失敗(本人)」(25件) 「不安定さ・滑りやすさ(環境)」(25件)
3. 「やけど」 (138件)	1. 「手・指」(101件) 2. 「前腕」(15件) 3. 「膝」(4件)	1. 「不注意(本人)」(82件) 2. 「不慣れ(本人)」(70件) 3. 「注意不足(指導・引率者)」(51件)

負傷の発生件数が多かった活動は「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」（140件）で、次いで「野外炊事」（127件）、「自由時間」（87件）であった。活動毎に負傷の症状をみると、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「ねんざ」（40件）、「打撲」（32件）、「きり傷」（11件）、「野外炊事」では「やけど」（73件）、「きり傷」（23件）、「虫さされ」（15件）、「自由時間」では「打撲」（30件）、「きり傷」（11件）、「ねんざ」（7件）が多くなっていた。

（疾病の概況）

疾病で多かった症状は「発熱」（1108件）で、次いで「頭痛」（249件）、「嘔吐」（167件）であった。なお、発熱のうち、「熱中症による」ものは89件であった。症状毎に発症した要因をみると、発熱では「疲労(本人)」（603件）、「病原体（ウイルス等）(環境)」（247件）、「気温（環境）」（175件）、「頭痛」では「疲労(本人)」（142件）、「気温（環境）」（81件）、「日差し（環境）」（57件）、「嘔吐」では「疲労(本人)」（84件）、「不安・心配・緊張(本人)」（39件）、「寝不足(本人)」と「気温（環境）」（28件）が多くなっていた。

(負傷の発生件数・割合の推移 (前回調査との比較))

- ・症状別にみると (表 2)、前回調査に続き、「打撲」(18.9%) が高い割合を占めている。前回調査と比べると、「やけど」(14.9%) の占める割合が高くなり、順位が上がっている。
- ・活動内容別にみると (表 3)、前回調査に続き、「スポーツ活動 (野球、サッカー、テニス等)」(15.1%) が高い割合を占めている。また、前回調査に比べ、「野外炊事」(13.7%) の占める割合が高くなり、「スポーツ活動」に次いで負傷の発生件数が多くなっている。

表 2. 症状別負傷発生件数・割合の推移 (上位 10 項目)

令和4年度(前回調査)

順位	症状	件	%
1	打撲	158	21.3
2	ねんざ	116	15.7
3	虫さされ	95	12.8
4	きり傷	80	10.8
5	やけど	76	10.3
6	すり傷	72	9.7
7	骨折	25	3.4
7	さし傷	25	3.4
9	突き指	13	1.8
10	鼻血	12	1.6

令和5年度(今回調査)

順位	症状	件	%
1	打撲	175	18.9
2	ねんざ	144	15.5
3	やけど	138	14.9
4	虫さされ	107	11.5
5	きり傷	105	11.3
6	すり傷	71	7.7
7	骨折	33	3.6
8	突き指	17	1.8
9	さし傷	16	1.7
9	鼻血	16	1.7



表 3. 活動内容別負傷発生件数・割合の推移 (上位 10 項目)

令和4年度(前回調査)

順位	活動	件	%
1	スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	101	13.6
2	オリエンテーリング・ウォークラリー	81	10.9
3	自由時間	75	10.1
4	野外炊事	58	7.8
5	登山・ハイキング	55	7.4
6	創作活動(クラフト等)	48	6.5
7	移動中	43	5.8
8	研修・学習活動	27	3.6
9	アドベンチャープログラム・インシアティブゲーム	25	3.4
10	カッター・カヌー・ボート・ヨット	24	3.2
10	就寝時間(起床時も含む)	24	3.2

令和5年度(今回調査)

順位	活動	件	%
1	スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	140	15.1
2	野外炊事	127	13.7
3	自由時間	87	9.4
4	創作活動(クラフト等)	68	7.3
5	登山・ハイキング	66	7.1
6	オリエンテーリング・ウォークラリー	57	6.1
7	移動中	38	4.1
8	就寝時間(起床時も含む)	37	4
9	研修・学習活動	34	3.7
10	キャンプファイヤー・キャンドルセレモニー	33	3.6



傷病の特徴と今後の安全対策

1. 負傷の特徴と安全対策

(負傷の特徴)

- 負傷した状況を見ると、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では接触プレーによる骨折や靭帯損傷・断裂、打撲、野外炊事では包丁や鉋による手のきり傷や熱い鍋を触ってのやけど、自由時間では移動中の転倒や階段の踏み外し等による骨折やきり傷、打撲といった負傷が目立っている。
- 負傷が発生した時間をみると、活動（午前）・活動（午後）ともに後半の時間帯になるにつれ、負傷の割合が高くなる傾向がみられる。
- 負傷の要因をみると、不注意、不慣れ、失敗といった本人の要因が6割弱、注意不足や指導不足といった指導・引率者の要因が2割弱、虫・動植物、不安定さ・滑りやすさといった環境要因が1割強を占めている。

(今後の安全対策)

- 指導者は、参加者に対し、入所時や活動前の安全指導（施設ではどのような事故やけがが起きやすいのか、それらはどうすれば防げるのかなど）を徹底し、安全意識（自分の身は自分で守る、他の人の安全にも気を配る等）の向上に努めるようにする。
- 指導者は、活動前だけでなく、活動中も事故やけがの予兆を見逃さないよう危険（リスク）の発見、把握に努めるようにする。特に、活動が後半になるにつれ、負傷する割合が高くなる傾向がみられることから、状況に応じて適切な安全指導や安全対策を行うようにする。
- 施設では、事前打ち合わせの際に、安全意識啓発チラシを活用しながら施設で起きやすい事故やけがとその安全対策についてきちんと説明し、利用団体の指導者・引率者が適切な安全管理や安全指導を行えるよう支援する。

2. 疾病の特徴と安全対策

(疾病の特徴)

- 発症した症状をみると、発熱、頭痛、嘔吐、吐き気、倦怠感（だるさ）が上位を占めており、いずれの症状も「疲労」が主な要因として挙げられている。その他、発熱や頭痛では気温、嘔吐では不安・心配・緊張といった要因も挙げられていた。
- 疾病の申し出があった時間をみると、他の時間帯に比べ、起床・朝食等や活動（午前）の時間帯の割合が高い傾向がみられる。
- 発症した後の対応をみると、疾病を申し出た者の約5割は帰宅している。

(今後の安全対策)

- 施設での生活は、普段の生活とは異なるため、慣れない環境による不安や緊張で寝不足になることもある。計画段階では、利用者の年齢や体力に合わせた無理のない活動計画を立てるようにする。
- 利用期間中は、朝の時間帯を中心に定期的に健康チェックを行い、疲れている様子がみられる利用者には適宜休憩を取らせ、体調を崩さないように配慮するなど、利用者の疲れ具合や体調に合わせた柔軟なプログラム運営を心がけるようにする。

調査の概要

1. 調査の趣旨

本調査は、国立青少年教育施設で発生した傷病や事故の状況を把握し、その傾向や要因を検証することで、施設の安全管理の改善や安全対策の充実に資する基礎資料を得ることを目的としている。

2. 調査対象とした傷病の条件

研修期間中に発生した傷病もしくは活動等によって既往症が悪化した傷病のうち、以下のいずれかの状況に該当する傷病

- ・保健室や事務室で対応した傷病
- ・病院を受診した傷病（事務室を通さず、団体が直接病院に搬送した傷病も含む）
- ・活動現場等で施設職員が手当てした傷病

3. 調査期間

令和5年4月1日（月）～令和6年3月31日（日）

4. 調査対象とした施設

国立青少年教育振興機構が有する施設 27 施設（国立オリンピック記念青少年総合センターを除く）

5. 調査実施体制

国立青少年教育振興機構教育事業部企画課（調査・普及）、青少年教育研究センター（集計・分析）

6. 調査内容

- （1）傷病者の情報（氏名、性別、年齢）
- （2）傷病が発生した状況（日時、利用者数、天候、活動場所、活動内容、処置・静養後等）
- （3）けが（症状、部位、程度、けがをした時の状況）又は病気（症状、時期）
- （4）傷病の発生要因（本人、指導・引率者、装備等、環境）

7. 本書を読むに当たって

- ・複数の傷病が重複して発生した場合、最も当てはまる症状の一つを選んで回答しているため、副次的に発生した傷病は件数に含まれていない。

例：自転車で転倒し、手首を骨折、足を擦りむいた場合 → 骨折（手首）として集計

- ・重複回答や無回答によって回答が分からなかったものは「不明」として集計している。
- ・図表に示している回答比率（%）は小数点以下第2位を四捨五入しているため、その和が100.0%と一致しない場合がある。
- ・令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行されたが、感染症流行前と比較し、利用者数が大幅に減少しているため、例年とは状況が異なる点に留意する必要がある。

調査結果の概要

1. 施設で発生した傷病の概況

表 1-1. 負傷・疾病別・事業種別の発生状況 (件)

事業別	傷 病			負 傷			疾 病		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
研修支援	2864	1541	1323	841	488	353	2023	1053	970
教育事業	114	54	60	51	26	25	63	28	35
不 明	126	65	61	35	21	14	91	44	47
計	3104	1660	1444	927	535	392	2177	1125	1052

研修支援：学校や青少年団体、青少年教育関係者等の研修目的達成に向けて、広く学習の場や機会を提供し、より効果的なプログラムの提案や教育的指導、助言等を行うこと。

教育事業：青少年の課題や国の政策課題に対応しつつ、立地条件及び地域特性やニーズに対応した、青少年の体験活動事業や青少年教育指導者等の養成研修事業を行うこと。

表 1-2. 年齢期別傷病発生件数・割合

年齢期	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
幼児	25	2.7	76	3.5	101	3.3
小学生	407	43.9	1089	50.0	1496	48.2
中学生	245	26.4	495	22.7	740	23.8
高校生	101	10.9	228	10.5	329	10.6
大学生等	80	8.6	191	8.8	271	8.7
社会人	63	6.8	93	4.3	156	5.0
その他	6	0.6	5	0.2	11	0.4
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	927	100.0	2177	100.0	3104	100.0

表 1-3. 月別傷病発生件数・割合

月	負傷		疾病		計		
	件	%	件	%	件	%	
春・夏	4月	56	6.0	154	7.1	210	6.8
	5月	155	16.7	179	8.2	334	10.8
	6月	132	14.2	199	9.1	331	10.7
	7月	122	13.2	317	14.6	439	14.1
	8月	140	15.1	369	16.9	509	16.4
	9月	99	10.7	273	12.5	372	12.0
秋・冬	10月	91	9.8	229	10.5	320	10.3
	11月	29	3.1	136	6.2	165	5.3
	12月	18	1.9	94	4.3	112	3.6
	1月	18	1.9	56	2.6	74	2.4
	2月	37	4.0	78	3.6	115	3.7
	3月	30	3.2	93	4.3	123	4.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
計	927	100.0	2177	100.0	3104	100.0	

表 1-4. 時間別傷病発生件数・割合

時間		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
起床・朝食等	6時	11	1.2	92	4.2	103	3.3
	7時	12	1.3	163	7.5	175	5.6
	8時	12	1.3	165	7.6	177	5.7
活動(午前)	9時	31	3.3	147	6.8	178	5.7
	10時	79	8.5	135	6.2	214	6.9
	11時	124	13.4	144	6.6	268	8.6
昼食	12時	63	6.8	155	7.1	218	7.0
活動(午後)	13時	69	7.4	140	6.4	209	6.7
	14時	86	9.3	116	5.3	202	6.5
	15時	105	11.3	118	5.4	223	7.2
	16時	89	9.6	115	5.3	204	6.6
夕食・入浴等	17時	54	5.8	104	4.8	158	5.1
	18時	28	3.0	128	5.9	156	5.0
活動(夜)	19時	59	6.4	120	5.5	179	5.8
	20時	49	5.3	96	4.4	145	4.7
	21時	31	3.3	91	4.2	122	3.9
	22時	11	1.2	67	3.1	78	2.5
就寝	23～5時	14	1.5	61	2.8	75	2.4
不明		0	0.0	20	0.9	20	0.6
計		927	100.0	2177	100.0	3104	100.0

※上記(左)の時間帯は施設の標準的な生活時間帯を示している。

表 1-5. 場所別傷病発生件数・割合

場所		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
生活エリア	宿泊室	98	10.6	601	27.6	699	22.5
	通路・階段	44	4.7	38	1.7	82	2.6
	食堂	9	1.0	166	7.6	175	5.6
	浴室	22	2.4	10	0.5	32	1.0
活動エリア	研修室・オリエンテーション室	61	6.6	268	12.3	329	10.6
	体育館・プレイホール・講堂	154	16.6	292	13.4	446	14.4
	武道場	6	0.6	8	0.4	14	0.5
	クライミングウォール	3	0.3	0	0.0	3	0.1
	工作室・調理室等	14	1.5	13	0.6	27	0.9
	野外炊飯場	134	14.5	135	6.2	269	8.7
	テントサイト	7	0.8	16	0.7	23	0.7
	グラウンド・広場・コート等	111	12.0	170	7.8	281	9.1
	屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)	151	16.3	241	11.1	392	12.6
	ロープスコース	5	0.5	3	0.1	8	0.3
	海洋施設	49	5.3	61	2.8	110	3.5
その他	敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)	38	4.1	113	5.2	151	4.9
	その他	20	2.2	36	1.7	56	1.8
不明		1	0.1	6	0.3	7	0.2
計		927	100.0	2177	100.0	3104	100.0

※アドバンチャープログラムで使用する活動場所

表 1-6. 活動内容別傷病発生件数・割合

活動		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
陸上活動	登山・ハイキング	66	7.1	97	4.5	163	5.3
	オリエンテーリング・ウォークラリー	57	6.1	135	6.2	192	6.2
	クロスカントリー	2	0.2	16	0.7	18	0.6
	サイクリング・マウンテンバイク	9	1.0	6	0.3	15	0.5
	アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム	29	3.1	33	1.5	62	2.0
	クライミング・ボルダリング	2	0.2	0	0.0	2	0.1
	スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）	140	15.1	175	8.0	315	10.1
	水辺活動	20	2.2	59	2.7	79	2.5
水辺活動	シュノーケリング・スキndaイビング	3	0.3	3	0.1	6	0.2
	海水浴・磯遊び・釣り	31	3.3	16	0.7	47	1.5
	沢登り・川遊び	9	1.0	9	0.4	18	0.6
	雪上活動	19	2.0	14	0.6	33	1.1
雪上活動	スキー・スノーボード	0	0.0	1	0.0	1	0.0
	クロスカントリースキー	7	0.8	9	0.4	16	0.5
	雪上活動（雪遊び、スノーシュー等）	127	13.7	136	6.2	263	8.5
野外生活	野外炊事	0	0.0	5	0.2	5	0.2
	キャンプ（テント設営等）	33	3.6	58	2.7	91	2.9
	キャンプファイヤー・キャンドルセレモニー	68	7.3	56	2.6	124	4.0
	創作活動（クラフト等）	7	0.8	20	0.9	27	0.9
	自然観察	34	3.7	278	12.8	312	10.1
研修	研修・学習活動	1	0.1	2	0.1	3	0.1
	奉仕活動	87	9.4	319	14.7	406	13.1
生活	自由時間	3	0.3	42	1.9	45	1.4
	つどい（朝・夕）	7	0.8	34	1.6	41	1.3
	清掃	12	1.3	200	9.2	212	6.8
	食事	23	2.5	11	0.5	34	1.1
	入浴	37	4.0	239	11.0	276	8.9
	就寝時間（起床時も含む）	38	4.1	51	2.3	89	2.9
	移動中	0	0.0	9	0.4	9	0.3
その他	入所前	54	5.8	135	6.2	189	6.1
	その他	2	0.2	9	0.4	11	0.4
不明		927	100.0	2177	100.0	3104	100.0
計							

表 1-7. 病院受診別傷病発生件数・割合

病院の受診	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
無	635	68.5	1820	83.6	2455	79.1
日帰り	286	30.9	337	15.5	623	20.1
入院	4	0.4	8	0.4	12	0.4
不明	2	0.2	12	0.6	14	0.5
計	927	100.0	2177	100.0	3104	100.0

表 1-8. 処置・静養後の対応別傷病発生件数・割合

処置・静養後	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
活動継続	812	87.6	1026	47.1	1838	59.2
帰宅	113	12.2	1125	51.7	1238	39.9
不明	2	0.2	26	1.2	28	0.9
計	927	100.0	2177	100.0	3104	100.0

2. 負傷の概況

(1) 負傷の状況

表 2-1-1. 負傷の症状

症状	件	%
きり傷	105	11.3
さし傷	16	1.7
すり傷	71	7.7
やけど	138	14.9
日焼け	2	0.2
凍傷	1	0.1
打撲	175	18.9
突き指	17	1.8
ねんざ	144	15.5
靭帯損傷・断裂	9	1.0
脱臼	5	0.5
骨折	33	3.6
鼻血	16	1.7
歯の破折	5	0.5
眼のけが	11	1.2
虫さされ	107	11.5
かぶれ	6	0.6
気道閉塞・誤嚥	0	0.0
溺水	1	0.1
その他	65	7.0
計	927	100.0

<その他>

肉離れ、爪はがれ、靴擦れ、とげ等

表 2-1-2. 負傷の部位

部位	件	%	%	
頭部	頭	78	8.4	21.1
	顔	82	8.8	
	眼	27	2.9	
	首	9	1.0	
上肢部	肩	12	1.3	37.6
	上腕	12	1.3	
	肘	25	2.7	
	前腕	27	2.9	
	手首	28	3.0	
	手・指	245	26.4	
体幹部	胸	2	0.2	2.4
	腹	1	0.1	
	背中	9	1.0	
	腰	10	1.1	
下肢部	尻	5	0.5	38.1
	大腿	29	3.1	
	膝	61	6.6	
	下腿	42	4.5	
	足首	151	16.3	
	足・指	66	7.1	
全身	2	0.2	0.2	
不明	4	0.4	0.4	
計	927	100.0		

表 2-1-3. 「虫さされ」の種類

種類	件	%
アブ・ブヨ	38	35.5
ハチ	22	20.6
ダニ	13	12.1
毛虫	6	5.6
ムカデ	3	2.8
クラゲ	9	8.4
その他	16	15.0
不明	0	0.0
計	107	100.0

表 2-1-4. 負傷の程度

程度	件	%
軽微(その場で手当てでできる軽いけが)	637	68.7
軽傷(医師による1か月未満の治療を要するけが)	231	24.9
重傷(医師による1か月以上の治療を要するけが)	38	4.1
致命傷(死亡・後遺症が残る重篤なけが)	0	0.0
不明	21	2.3
計	927	100.0

表 2-1-5. 負傷の要因

(複数回答)

要因		件	%	%
本人	失敗	139	15.0	57.6
	不注意	402	43.4	
	不慣れ	259	27.9	
	不適切な行動	43	4.6	
	寝不足	5	0.5	
	疲労	65	7.0	
	不安・心配・緊張	12	1.3	
	体力不足	15	1.6	
	人間関係(けんか、ふざけ等)	19	2.0	
	既往症	15	1.6	
	アレルギー	7	0.8	
指導・引率者	指導不足	64	6.9	19.1
	注意不足	190	20.5	
	経験不足	29	3.1	
	人数不足	21	2.3	
	連携不足	4	0.4	
	準備不足	17	1.8	
装備	不適切な服装	38	4.1	5.0
	装備不備	24	2.6	
	装備不良(破損・劣化)	9	1.0	
	施設・設備の故障・不具合	14	1.5	
環境	荒天(強風、雷、吹雪等)	5	0.5	12.9
	気温	11	1.2	
	日差し	9	1.0	
	高度(標高)	0	0.0	
	水深	0	0.0	
	雪	6	0.6	
	落石・落木	2	0.2	
	不安定さ・滑りやすさ	80	8.6	
	虫・動物	98	10.6	
	植物	5	0.5	
	病原体(ウイルス等)	4	0.4	
	その他	73	7.9	
不明	18	1.9	1.1	
回答者数		927		↑

※上記の数値は回答数(N=1702)を基に割合を算出

3. 疾病の概況

(1) 疾病の状況

表 3-1-1. 疾病の症状

症状	件	%
発熱	1108	50.9
咳・喉の痛み	73	3.4
くしゃみ・鼻水	4	0.2
喘息	17	0.8
過呼吸	12	0.6
頭痛	249	11.4
めまい	45	2.1
吐き気	138	6.3
嘔吐	167	7.7
腹痛	100	4.6
下痢	4	0.2
生理痛	22	1.0
歯痛	0	0.0
脱水	9	0.4
けいれん	15	0.7
倦怠感(だるさ)	112	5.1
発疹	25	1.1
低体温	4	0.2
その他	73	3.4
計	2177	100.0

<その他>

乗り物酔い、寒気、低血糖、貧血 等

表 3-1-3. 疾病の発症時期

時期	件	%
数日前から	65	3.0
前日から	220	10.1
今朝から	534	24.5
急に	1170	53.7
その他	122	5.6
不明	66	3.0
計	2177	100.0

<その他>

入所前、バス乗車中、食後、等

表 3-1-2. 疾病の要因

(複数回答)

	要因	件	%	%
本人	失敗	12	0.6	
	不注意	23	1.1	
	不慣れ	163	7.5	
	不適切な行動	9	0.4	
	寝不足	291	13.4	
	疲労	1159	53.2	59.7
	不安・心配・緊張	317	14.6	
	体力不足	179	8.2	
	人間関係(けんか、ふざけ等)	8	0.4	
	既往症	84	3.9	
アレルギー	30	1.4		
指導・引率者	指導不足	28	1.3	
	注意不足	70	3.2	
	経験不足	26	1.2	
	人数不足	7	0.3	4.1
	連携不足	12	0.6	
	準備不足	12	0.6	
装備	不適切な服装	19	0.9	
	装備不備	7	0.3	
	装備不良(破損・劣化)	1	0.0	0.9
	施設・設備の故障・不具合	6	0.3	
環境	荒天(強風、雷、吹雪等)	16	0.7	
	気温	407	18.7	
	日差し	163	7.5	
	高度(標高)	21	1.0	
	雪	4	0.2	
	落石・落木	0	0.0	24.0
	不安定さ・滑りやすさ	0	0.0	
	虫・動物	7	0.3	
	植物	16	0.7	
	病原体(ウイルス等)	279	12.8	
その他	265	12.2	7.0	
不明	170	7.8	4.5	
回答者数		2177		↑

※上記の数値は回答数(N=3811)を基に割合を算出